



社協HPはこちら

社会福祉協議会(社協)は、市民の参加と協力によって運営され、地域福祉の推進を図る民間の組織です。

～不安を感じる子育て家庭によりそ風のように～ 訪問型支援「ホームスタートやまと」のメンバーに聞きました

核家族化が進み、地域とのつながりが弱まりがちな昨今、密室育児に悩む保護者は少なくありません。大和市内では、ビジター（既定の研修を修了した子育て経験者）が家庭を訪問し、傾聴や協働を通じて親に寄り添う「ホームスタート」事業が行われています。その運営を担うNPO法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケアのオーガナイザー（訪問内容などの相談役）の福田津子さんと、ビジターの岩城公子さんに、その活動内容や想いを聞きました。



岩城さん（左）と福田さん

—「ホームスタート」とはどのような活動なのでしょう。

福田さん 未就学児（6歳以下）がいる家庭を対象に、研修を受けたボランティア「ビジター」が無料で訪問する子育て支援です。基本は週に1回、2時間程度の訪問を全6回行います。ベビーシッターのような「保育」や家事代行そのものが目的ではなく、親と一緒に過ごし、話を聴いたり家事や育児と一緒にいたりする「ピアサポート（仲間による支援）」が特徴です。大和市との協働事業として実施されており、市社協の職員さんにも構成メンバーに入っています。

—具体的に、訪問中はどのようなことをするのでしょうか。

岩城さん 本当に様々です。例えば、子どもと遊ぶこともあれば、お母さんの話をとにかく聴くこともあります。ある時は、離乳食作りが不安だというお母さんと一緒にキッチンに立って料理をしたり、初めて子どもを連れて電車に乗るのが怖いという方に付き添って、一緒に外出の練習をしたりすることもあります。

—「一緒に」というのがポイントなのですね。

岩城さん はい。私たちはお母さんに「何かを指導する先生」として行くのではなく、あくまで「子育て経験者（先輩ママ）」として伺います。実家のご両親だつと「もっとこうしなきゃダメよ」と言ってしまうがちですが、私たちは否定せず、お母さんの気持ちに寄り添い、自信を持って子育てができるよう見守ります。

福田さん お母さんが自分で「こうすればいいんだ」と気づき、成長していくためのお手伝いですね。利用期間が終わる頃には、自分たちで楽しめる場所を見つけたり、少し自信がついたりして卒業されていきます。



—どのような方が利用されていますか。

福田さん 実家が遠方だったり、ご主人が仕事で忙しくワンオペ育児状態だったり、孤立感を感じている方が多いです。双子や年子のお子さんがいて外出が困難な方からの依頼もあります。最近では男性の育児休業取得も増えていますが、逆に「夫が家にいるけれど、どう育児に関わってもらえばいいかわからない」「会話が噛み合わない」といったモヤモヤを抱えるお母さんもいらっしゃいます。ビジターが第三者として間にすることで、夫婦の会話の潤滑油になることもあるんですよ。

—活動をしていて感じることはありますか。

岩城さん 訪問すると、お母さんが話をすることで発散され、表情が明るくなるのを感じます。私たちはよく、ホームスタートの訪問を「閉め切った部屋の窓を少し開けた時に入ってくる風」や「乾いた心に落ちる雫」に例えます。ほんの少しの風通しの良さが、育児の閉塞感を和らげるきっかけになればと思っています。

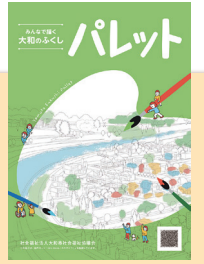
—最後に、読者へメッセージをお願いします。

福田さん 「こんなことで頼っていいのかな」と思わずに、まずは連絡してみたいです。利用には事前の申し込みが必要ですが、オーガナイザー（調整役）が最初に伺ってご希望や頼りたいことなどを丁寧に伺います。

岩城さん 真面目なお母さんほど「自分でやらなきゃ」と抱え込んでしまいます。誰かの手を借りることは悪いことではありません。地域には私たちのような「お節介なおばちゃん」がいることを知っていただき、気軽に利用してほしいですね。

ホームスタートに関する問い合わせは
NPO法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア ☎046-264-5726

目を向けたい 8つの問題



地域福祉活動計画パレットでは、「目を向けたい8つの問題」を掲げています。今回は、特に⑥と⑧に関連した「ホームスタートやまと」について話を聞きました。

- 1 孤独・孤立、無理解の問題
- 2 ひとり暮らしになったときの不安と、終活・死後の手続きの心配
- 3 どの年齢層にも存在する買い物困難問題
- 4 仕事と住まいの確保の問題
- 5 「災害弱者」の被災・避難・生活再建問題
- 6 こどもとその親などが抱えるさまざまな困難の問題
- 7 外国ルーツの人や外国人の暮らしにくさの問題
- 8 よりそい、ともに成長できる支えあいの広がり必要性
(求められる多様な支援と、担い手の確保の問題)

地域福祉セミナーやまと2026

「みんなが安心して暮らせる
福祉のまちづくりと住民参加の大切さ」
～いま地域にある問題に目を向け、
これからの福祉活動を考える～

日時 3月15日(日) 13:30～16:00
場所 大和市保健福祉センター 1階ホール
(大和市鶴間1-31-7)
※駐車場に限りがあるため、公共交通機関をご利用ください。

内容 駒澤大学文学部社会科学科社会福祉学専攻
基調講演 講師 教授 川上 富雄 氏
実践報告① 協議体と地区社協と一緒に
地域の問題解決にむけて動きだした取り組み
中央地区支え合い協議会 会長 成田 健三 氏
実践報告② こどもとその親などが抱えるさまざまな困難と、
そによりそう支援
NPO法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア理事長 永井 圭子 氏
主催 社会福祉法人 大和市社会福祉協議会
後援 大和市
申込み 400人(申込制) やまとボランティアセンターへ
☎046-260-5643

地域福祉への参加 今、私にできること 大和市善意銀行を通じた支えあいのカタチ

善意の金品をお預かりし、それを必要な事業や人・団体等に払い出す「善意銀行」。寄附を続けている「株式会社しくらセモノー」の穴倉作蔵代表に、話を伺いました。

—10年以上続く寄附への思いをお聞かせください。
「創業以来、人形供養の供養料の一部を大和市社協へ寄附金として提供しています。人形を大切にしてきたお客様の「優しい気持ち」や「感謝」の形としての供養料を、地域の困っている方々のために役立てたいという一心で続けてきました。」

—寄附を考えている方へメッセージをお願いします。



「高額である必要はありません。気持ちがあれば、食料品1つか笑顔の穴倉代表らでも大丈夫です。まずは軽い気持ちで社協のドアをノックしてみてください。行動することで、そこから支援が始まります。」

★市社協では、随時、以下を募集しています！

預かり品等についてもご相談ください。
食料品(米、レトルト食品、保存食等)、布地、着物、帯、紙オムツ類、タオル類、未使用切手、書き損じハガキ



「令和8年度 手話入門講座」、「令和8年度 手話通訳者養成講座」のブラッシュアップコースと統一試験対策コースの受講者を募集します。

各講座に関しては下記の二次元コードから詳細をご確認ください。



詳細はこちら

注:令和8年度に大和市中から委託を受け、実施予定の事業です。

すぐ話せる手話No.149「手話講座始まる」

手話

両手人差し指の指先を左右に向けて上下に置き、垂直に交互に回す

こうざ講座

左手甲に右肘をのせ、指を伸ばして立てた右手を前後に動かし、右手で指文字「ザ」を示す。

はじ 始まる

両手掌を前に向け、親指側をつけた両手を左右へ引き離す。

まちの身近にある“働くところ”

障がいのある人が働く場所をおススメとともに紹介します。

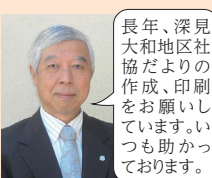
法人名: 社会福祉法人 泉央福祉会
事業所名: ワークス桜舎
住所: 大和市柳橋2-9-9
TEL: 046-259-6701



ワークス桜舎では、軽作業や印刷作業を中心に、利用者さんが日々仕事に取り組んでいます。様々な印刷物を取り扱っていますので、ぜひ、ご注文下さい!

今回は「ワークセンターあおぞら・大和」です。

わたしたち、応援しています



深見大和地区社会福祉協議会 顧問 鈴木勝雄 様

市社協会員にご加入ください!

自治会のご協力のもと…

- 一世帯 年額300円～
- 市社協に直接加入する場合は…
- 会社・企業 年額5,000円以上
- 団体・施設 年額5,000円



※加入は任意に基づくものです。

やまと社協だより 来年度の発行予定

5月29日金、9月25日金、11月27日金、2027年2月26日金
発行のタウンニュース大和版に掲載いたします。新聞折込や、公共施設、大和駅、市内郵便局や金融機関などで入手できます。郵送希望の方は、市社協へご連絡ください。

問い合わせは 市社協 ☎046-260-5633へ。

「車椅子貸出事業」縮小のお知らせ

～子ども用は継続・大人用は廃止～
当会で実施しております「車椅子貸出事業」(大人用)につきましては、令和8年3月31日をもって終了させていただきます。なお、子ども用(小学校低学年くらいまで)につきましては引き続きご利用いただけます。問い合わせはボランティアセンター ☎046-260-5643へ。

公式LINEのお友だち登録を
よろしくをお願いします!

市社協からの
お知らせを配信します。
お楽しみに!

